

介護職員等処遇改善加算取得に係る職場環境等要件

R6年6月1日現在

区分	内容	当法人が実施している具体的な取組
入職促進に向けた取組	1 法人や事業所の経営理念やケア方針・人材育成方針・その実現のための施策・仕組みなどの明確化 2 他産業からの転職者、主婦層、中高年齢者等、経験者・有資格者等にこだわらない幅広い採用の仕組みの構築	<ul style="list-style-type: none"> ・新人の入職時に『銀砂台勤務心得』を各職員に配付し、法人理念等の浸透を図っている ・転職者の採用時には、給与の前職換算を行い、なるべく転職前の給与水準が担保できるよう努めている。 ・新人職員の指導マニュアルを作成し、選任の教育担当者がOJTを行うことで、未経験者が入職しやすい環境を整えている。 ・日本人だけでなく、外国籍の介護職員を積極的に受け入れている。
資質の向上やキャリアアップに向けた支援	働きながら介護福祉士取得を目指す者に対する実務者研修受講支援や、より専門性の高い介護技術を取得しようとする者に対する喀痰吸引、認知症ケア、サービス提供責任者研修、中堅職員に対するマネジメント研修の受講支援等	<ul style="list-style-type: none"> ・実務者研修費用の立替えや、研修費に係る助成金申請の支援を行っている。 ・一定数以上の受講希望者がいる場合は、提携教育機関との連携により法人内施設を会場とし、介護福祉実務者研修や喀痰吸引研修を開催している。 ・中堅職員に対しては、外部の教育機関から講師を招聘し、中間管理者研修を実施している。
両立支援・多様な働き方の推進	職員の事情等の状況に応じた勤務シフトや短時間正規職員制度の導入、職員の希望に則した非正規職員から正職員への転換制度等の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の事情等により夜勤業務や土日祝日の勤務に制限がかかる職員を対象に「限定正職員」制度を設け、正職員の身分を維持できるように配慮している。 ・正職員から非常勤職員への転換、又は非常勤職員から正職員への転換について、職員の希望に応じて柔軟に対応している。
腰痛を含む心身の健康管理	介護職員の身体の負担軽減のための介護技術の修得支援、介護ロボットやリフト等の介護機器等導入及び研修等による腰痛対策の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・腰痛対策として、移乗用スライディングボードを導入している。 ・腰痛対策研修会に、定期的に職員を参加させている。 ・各職員の就業前に、腰痛予防体操を行っている。
生産性向上のための業務改善の取組	1 タブレット端末やインカム等のICT活用や見守り機器等の介護ロボットやセンサー等の導入による業務量の縮減 2 業務手順書の作成や、記録・報告様式の工夫等による情報共有や作業負担の軽減	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末の導入により、介護記録の記入時間短縮化や情報共有の効率化を行っている。 ・銀砂台「助川サテライト」においてインカムを導入している。 ・各業務について手順書を作成し、業務遂行の効率化を行っている。
やりがい・働きがいの醸成	ミーティング等による職場内コミュニケーションの円滑化による個々の介護職員の気づきを踏まえた勤務環境やケア内容の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回、フロアごとにミーティングを実施し、ケア内容の最適化や業務改善等について、協議をしている。当該ミーティングだけで解決できない課題は、リーダーミーティングや運営会議等、上位の会議にはかり、課題解決につとめている。